

## ◆ 渋谷都税事務所長賞 ◆

「税についての教育が足りない！」

渋谷区立上原中学校 3年 松本 留依

夏休みの課題で、「税についての作文」が出た。内容が税に関するものであれば、何でも構わないという。中学生である私にとって 税=消費税 くらいの認識だ。そもそも、中学生で税の仕組みに詳しい人がいるだろうか？中学生でなくても、学生と言われる世代でどのくらいの人が税の知識を持っているのか？

私には兄弟が三人いる。小学生の弟は、私と同じくらいの知識であることが想像できるので除外するとして、大学生の兄と姉に税について聞いてみた。「税」と聞いてイメージすることは？

大学生になったばかりの姉に聞くと、自身に関わる税はやはり消費税くらいだという。

大学三年生の兄は、消費税が最も身近な税。プラス、彼はバイクを持っているので年に一回軽自動車税を納めているという。

質問を変えてみた。大学生になるまでの間で、どこかで「税」について学んだことがあるか？

答えは二人とも NO。教科の授業の中で触れられたことはあったかもしれないけど、具体的に教わった内容は覚えていないし、ほぼ記憶にないという。

では、大人になったら知ることか？両親にも聞いてみた。大学を出て会社に勤め始めてから、所得税、住民税が給料から差し引かれることを知ったという。その後、会社を辞め、自らの会社を始めるにあたり、税について多少学んだようだ。税は、大多数の人にとって給料から自動的に差し引かれるものであってそれ以上でもそれ以下でもないのではないだろうか。

国民の三大義務の一つである納税。しかし、税についての情報が圧倒的に足りない。道路や水道、学校、警察、消防といった社会を維持していくために必要なシステムを作るうえで必要不可欠な税なのに、いい大人になるまで詳しく知る機会がない。いや大人になっても学ぶ場はないかもしれない。

税は納めるだけではない。自分に使われる税もあるのだ。納める税は、消費税くらいしか知らない私にも、使われる税については思いだすエピソードがある。小学校時代、怒りに任せて教科書を破った同級生を担任の先生が叱った。「教科書はみんなの税金から作られている。そんなに粗末に扱ってはいけない」と。その時、私は初めて自分に使われる税金との接点を知った気がする。納める税と使われる税。税についての知識が増えれば、意識も高まる。

配られたパンフレットによれば、一人当たりの年間公費負担額が最も高い学年は中学生だという。その点でも最も税金の恩恵を受けている私達中学生が、税金について深く知り、能動的に関わっていくための教育が必要といえる。この夏、日本を盛り上げた「〇〇が足りない！」のフレーズ。今の日本には「税の教育が足りない！！」のではないだろうか？